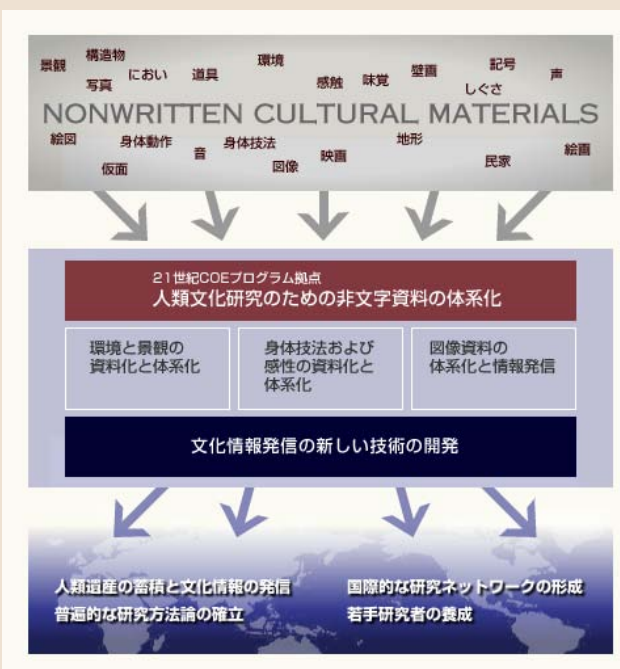


実験展示

人類文化研究のための非文字資料の体系化

2002年度から文部科学省が開始した「21世紀COEプログラム」は、世界的な研究拠点を構築するための大学支援策であり、大学院博士課程を持つ多くの大学がそれに採択されることを目指して競うこととなった。私どもの「人類文化研究のための非文字資料の体系化」は、2003年度に学際・複合・新領域の分野で採択された。実施に当たっては、研究課題にかかわる学内外の多くの研究者に参加を要請し、共に研究に従事してもらい、目的を達成することにした。

今までの文化研究では文字に記録された事象に専ら関心が集中してきた。しかし、文字に表現されない人間の観念・知識・行為ははるかに幅広く、質量ともに大きい。それは文字で表現された事象とは比較にならない。私たちの事業は、これらのなかから①図像、②身体技法、③環境・景観の三つに絞って、それぞれの事象について資料化する方法を開発し、その結果として資料を蓄積し、蓄積した資料を分析して発信することを目的としたものである。その研究構想を示せば、以下の通りである。



研究成果は、すでに各種の刊行物やホームページで順次公開してきたが、最終年度になる本年度には、その最終成果をデータベースや各種情報のウェブ上での発信という方法で世に問い、また多くの研究成果報告書として刊行することとした。今回の実験展示「あるく-身体記憶-」は、私どもの研究成果を広く発信する方法として構想され、実施するものである。

「あるく-身体記憶-」の実験

実験展示「あるく-身体記憶-」は、私たちが日常生活において身に付けているあいさつなどの身体技法が、世代を超えて受け継がれてきたものであることを表現し、身体に記憶された非文字資料の豊かな歴史的世界をメッセージする。

現在、街中で人々が歩いている様子を見ると、実に様々な歩き方をしていることがわかる。そこには、年齢や性差などによる歩き方の差や、その状況に応じた歩き方のバリエーションの違いがみられる。さらには、それぞれの歩き方のくせというような個人差がみられる。また、履物や服装などによっても、歩き方に変化がみられる。

日常生活において最も一般的な行為の一つである歩くという行為をテーマとして、歩くことが世代を超えて私たちの身体に伝えられたものである可能性があることを、この展示によって実験してみたい。



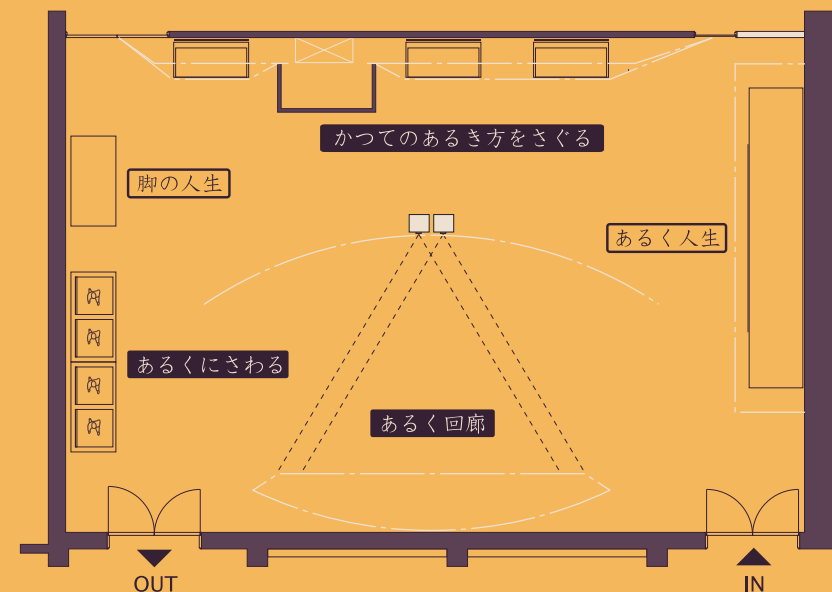
名古屋市博物館蔵「東街便覧図略」「新卑姑射文庫」

あるく  
-身体記憶-

2008年2月23日(土)・24日(日)  
開室時間：10:00～18:00 入場無料  
神奈川大学横浜キャンパス3号館 常民参考室

神奈川大学21世紀COEプログラム  
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1  
TEL 045-481-5661 URL <http://www.himoji.jp>

展示室見取り図



**あるくにさわる**  
人形を使ってかつての歩き方などの歩くフォームを復元し、そのフォームをさわることで、より立体的に歩くことによる身体のあるき方を感じてもらおう。

**あるく回廊**  
かつての私たちの歩き方を図像資料、映像資料を見てから、実際にかつての歩き方などを体験し、普段の歩き方との違いなどを実感する。

**かつてのあるき方をさぐる**  
「あるく回廊」と同様にかつての歩く姿の図像資料、映像資料の特色を捉えることで、かつての歩き方を考える。また、あるく回廊において映写した図像資料などをパネルに仕立てることによって、明確にかつての歩き方を提示する。